

結露のお話



冬になると、「温度」「温度差」「湿度」などが原因で発生する結露。部屋が湿気たり、カビ・ダニの原因にもなってしまいます。今回は、**エコ関連の執筆・講演活動をしている、マンガ家の“赤星たみこ”さんの「赤星流エゴロジストな暮らし」より 手作り結露対策のお話をご紹介します。**

材料は、アクリル板。厚みは5ミリ。(塩ビ板ならアクリル板の約半額)
原理は、窓のサイズにカットした2枚のアクリル板、もしくは塩ビ板を窓の上下に取り付けたコの字型レールにはめ込んで、可動式の窓を作る、というだけのものです。難しいのはサイズをきちんと測ることだけで、カットはお店でやってもらえます。レールは、上は接着剤と木ねじで止め、下は動かすとき引っかからないよう木ねじは使いません。接着剤だけにします。コの字型のレールは、たわみ防止に窓の縦の面に取付ます。

効果抜群！暖かさも段違い！

赤星さんのお宅、結露が無くなり、暖かさが全然違ったそうです。

『最初に設置してから16年経ちますが、特に不都合も無く使っています。ガラスは割れたとき怖いのですが、アクリルや塩ビなら割れにくく、光も通します。カーテンよりも気密性も高いのです。気をつけることは、アクリルや塩ビの板ですから、燃えやすいものを近くに置かないことくらいでしょうか。これはカーテンなどと同じ程度の気の使い方でもOKです。窓全体を覆うので、アルミサッシの枠にも結露が無く、本当に快適です。あれば、雨戸も閉めると完璧です。』



昨年完成した、藤枝市F邸 門・塀が完成しました。



木くぼり

木がつくる住環境 情緒編②

木と木造住宅の情緒的特性



情緒は、その人の生まれ育った環境の諸々の因子、気候、風景、住居、生活様式、人間関係などが総合されて形成されます。ここでは、特にそのうち木材が関与している情緒的因子についてのお話です。「木」の物性の何が、人間の情緒、あるいはイメージとどのように関係しているのか、人の五感（視、触、聴、嗅、味）に従って解析します。

●触感覚と木材

室温は低くないのに、何となく寒く感じる…それは、室温（空気温度）と体感温度に大きな差がある場合です。

$$\text{体感温度} = (\text{気温} + \text{肌に触れた温度}) \div 2$$

手や足が、木材に触れた時、ヒヤッとせず、温かく、やわらかく、夏場はさらりとした感じが、人に優しい情緒的に良い材料として評価されます。

●視覚と木材

見た目にも情緒的にもよいと言われるものは、目に対する刺激が小さく、自然な視覚特性をもった材料です。木材の色彩、光の反射率は目に強い刺激を与えず（紫外線の吸収効果）、木目の自然な造形、光沢は「温かい」「心がなごむ」「落ち着いた」情緒があります。

●聴感覚と木材

聴感覚に関してまず思い当たるのは、楽器に用いられている木材のことです。よく響くだけでは、他の材料でもよいはずですが、なぜか木材でなければならないところに、木材の情緒的特徴があるようです。その一つの理由として、木材の響きは一般に「やわらかい」ということです。それは木材が細長い中空の細胞でできていることが関係しています。

●嗅覚と木材

木材の臭いには精神的な鎮静作用がありますが、薬では得られない心理的な効果も感じます。これは木材の臭いに、緑の森や幼いころの記憶など、情緒的なものを想起させる不思議な作用があるからです。

以上のように、木材は、五感に対して総合的に「落ち着き」「安らぎ」「あたたかさ」を与え、刺激も少なくほどほどであるため、情緒的な素材といえるようです。